



日本医療機能評価機構 認定病院

甲府共立病院

Kofu-Kyoritsu hospital

Regional Medical Liaison Office
News and magazine

地域連携室だより

地域の皆様が安心して治療が受けられるように

2015年 8月号



公益社団法人 山梨勤労者医療協会

非常勤医師紹介

N o b o l u H a g i n o



血液・リウマチ内科 専門医

萩野 昇(はぎの のぼる)

帝京大学ちば総合医療センター

【略歴】

はじめまして、萩野 昇(はぎの のぼる)と申します。

2000年3月に東京大学医学部を卒業し、米海軍横須賀病院(USNH Yokosuka)・東大病院・国立国際医療研究センター病院で内科研修の後、都立駒込病院(当時)内科シニアレジデントを経て東京大学医学部附属病院 アレルギー・リウマチ内科で勤務しました。

2011年より帝京大学ちば総合医療センターに赴任し、同センターでリウマチ・膠原病の診療科を立ち上げて現在に至ります。

当科の後期研修にいらっしゃった先生が甲府共立病院で3年間の初期研修を終えられたことがご縁となって、こちらにおうかがいしております。

【診療】

「リウマチ・膠原病科」は、関節の慢性的な痛みや原因不明の発熱(「不明熱」と呼ばれることがあります)の原因を突き止め、適切な治療方針を立てることを専門とした科です。以下のような疾患が診療対象です。

関節リウマチ・脊椎関節炎(乾癬性関節炎・強直性脊椎炎など)・リウマチ性多発筋痛症・結晶性関節炎(痛風・偽痛風など)・全身性エリテマトーデス・シェーグレン症候群・全身性硬化症(強皮症)・ベーチェット病・血管炎(高安動脈炎・顕微鏡的多発血管炎など)

関節リウマチの診療はここ10年で大きく進歩し、早期診断・適切な治療によって「リウマチを忘れた」生活が送れるような時代になりつつあります。関節の痛みが持続し、なかなか改善しない場合には、一度ご相談いただければと思います。

Y u k o N a k a y a m a



乳腺・甲状腺外科 専門医

中山 裕子(なかやま ゆうこ)

4月より乳腺・甲状腺外科として勤務することとなりました中山裕子と申します。

普段は大学病院の医局にこもってもくもくと勤務していますが、非常勤医師として甲府共立病院に出向する運びとなり、水曜の午前中のみとなりますが勤務させていただくこととなりました。

実は今年の3月まで山梨県中央病院で勤務していました。乳腺の他、むしろ消化器外科を主として勤務していたため、ホームページ上で消化器外科医師として紹介されている自分のほうをご存じの方もいらっしゃるかもしれません。実際、大学の外来で「県中では消化器の手術がすごく好きな先生って聞いていたんですけど・・・」なんてことを言われた患者さんもうらっしゃったそうです。ちゃんと乳腺の手術もやりました。どうしてでしょう。噂って怖いですね。

手術の好き嫌いはおいておくとして、消化器疾患と乳腺疾患を比較するとだいぶ特色が違います。双方とも癌を中心に診療を行うことが多いのですが、疾患の特色もさることながら、間違いなく違うのは消化器領域では男性の患者さんが多いのに対し、乳腺の領域では女性の患者さんがほとんどという点です。

この4月から本格的に乳腺・甲状腺領域を専門に勤務を開始しましたが、女性の患者さんならではの悩み相談の多さに考えさせる毎日です。

まだまだ修行中の身ではありますが、受診しやすい、話しやすい外来を目指し日々、精進していこうと思います。

今後とも宜しくお願い申し上げます。

ニューヨークでの活動報告

in New York



山梨代表団の一員として、NPTニューヨーク行動に参加できたことを大変嬉しく、光栄に思います。

セントラルパークでの署名活動では、全く無関心な人や、反核平和活動に興味関心を抱き快く署名を承諾してくださる人など様々でした。中には、「私は広島・長崎での原爆の歴史をよく知らない。だから、私が署名を書くことはできない。」という方もいて、まずは多くの人に核兵器の悲惨さやその歴史を知ってもらうことが大事だなと実感しました。“知らないことによる無関心”があつてはならないと思います。そういう意味でも、マンハッタンのパレードは反核をアピールする絶好の機会だったと思います。

私は10000人規模のパレードに参加した経験があまりあ

りませんでした、あれだけ大規模な行動をしかもニューヨークで行ったということに、大きな意義と達成感を実感しています。

「医療・福祉関係者のつどい」「NO NUKES! 青年交流集会」では、広島被爆者から貴重な体験談を聞くことができました。「NPTは核不拡散だが、我々が目指しているのは核廃絶だ。今回ニューヨークで証言できて、生きてよかったと思う。」といった“被爆者の生の声”を聞き、医療従事者として被爆者と真摯に向き合う姿勢が大事だと改めて思いました。また、広島・長崎・アメリカなどの各青年代表が日ごろの活動や反核への思いを自由に語り合い、自由に討論しました。会場からは「核肯定派も交えてより深い議論をし、反核の活動を広げていく必要がある。」といった意見も出ており、大変興味深く、とても刺激になる青年討論でした。

今回、NPT再検討会議自体は最終文書が採択されずに残念な結果となりました。しかしながら、ハマーショルド広場に山積みされ集まった633万筆と世界各国から集まった200万筆、合計800万を超える署名数が、成果移住からの“反核の声”を具現化しています。世界の民意を行動や形として示すことができたのは、とても意味のあることで、個人的には今回の活動は大成功だと思っています。

これを機に、今後は甲府共立病院からの反核・平和活動のさらなる盛り上げに尽力していきたいと思います。

医師 鎌田 康弘

今回のNPTに参加してNYでの署名や様々な活動を通じ印象に残ったことは米国民の核兵器に対する認識の低さです。加害国であり、核保有国である米国の核に対する考え方そのものと、国民の認識が変わらなければ核廃絶は難しいと肌で感じる事が出来ました。

そんななかで唯一の被爆国である日本は核廃絶のリーダーとしてより大きな行動を起こすべきです。また国連事務総長が、市民社会との連携を訴える中で署名が持つ力強さ、意義を語っており今後も署名を通じ声を上げ続けることが私たちに出来る重要な反核活動であると改めて感じる事が出来ました。

平和の思いを各々がアピールしNYの中心地を歩くパレードに参加し、1000人以上の日本人が集結し反核、平和を訴える姿をみて、エネルギーを持って平和行動している人々は全国には大勢いるのだと感じ勇気づけられました。そのうえで私自身ももっと学習し何か行動を起こさなくてはならないと強く思いました。



最後にNYに行き、世界最大の経済都市の空気、文化に触れ、平和に対する思いだけでなく、自身の価値観の変化や成長に繋がったとても貴重な経験が出来たと思っています。この経験を山梨の方々に伝え、山梨の地での反核平和の活動を盛り上げていきたいです。

理学療法士 前嶋 康路

みんなで、
よっちゃばるじゃんよってけし

くつろぎ処

ともだち

7月16日よりオープン!

場所: 甲府共立病院東館(旧長田組)2階

甲府共立病院・診療所を受診された方や、ご近所の方々など、どなたでもおしゃべりなどを楽しみながらゆったりと過ごせるスペースが甲府共立病院東館の2階にオープンしました。

みなさま、お気軽にお越しになって、楽しい時間を過ごしてください。



『ともだち』開所式の様子

地域連携室より

平日のご紹介は、すべて「地域連携室」に事前にお電話でご連絡をお願いしております。

診療依頼の場合

平日・時間内は、甲府共立診療所で診察を行います。
但し、ADLの状況や病態によっては、甲府共立病院で診察を行うことがあります。

入院相談依頼の場合

可能な限り入院ができるようベッドを調整しております。
スムーズな入院受け入れのため、以下のような情報をお尋ねしますのでご了承ください。

- ①…患者様の名前
- ②…生年月日
- ③…病名(必要なデーターなど)
- ④…ADL状況
- ⑤…認知症の有無

ご紹介をいただき、入院される方の入院までの流れは以下のようになっています。

- ①…地域連携室で、受け付けをします。保険証・紹介状をご提示下さい。
- ②…紹介外来担当医師の診察を受けます。
- ③…患者様と相談の上、入院の具体的な内容を確認します。
- ④…看護師が、入院の説明・必要な処置を行ないます。
- ⑤…病院病棟のベッドが用意できるまで、お待ち頂く事があります。

先生方のご理解、ご協力に

大変感謝しております。

今後ともよろしくお願いいたします。

職員募集のお知らせ

● 正看護師 ● 准看護師 ● 夜勤専従看護師 ● 看護補助者
問い合わせ先 総看護師長室 ☎055-226-3131(代表)

編集・発行 甲府共立病院 地域連携室

山梨県甲府市宝1-9-1 TEL:055-226-3131(代表) FAX:055-221-0006(連携室直通)
<http://www.yamanashi-min.jp/kofukyouritsu>